

# 第6次室蘭市総合計画 概要版

## 1. はじめに

### 1. 策定にあたり

#### 策定の趣旨

これまで、第4次総合計画（平成9年度策定）の基本構想を引き継いだ第5次総合計画（平成19年度策定）を策定しまちづくりを進めてきたが、基本構想の策定から20年が経過し、日本全体が人口減少社会を迎える中、本市を取り巻く社会情勢は大きく変化している。

人口減少に伴う様々な課題に向き合う時代に、将来のあるべき姿を展望し、まちづくりの長期的なビジョンを示し、将来にわたって住み続けたいまちを目指すための指針として、新たな総合計画（第6次総合計画）を策定する。

#### 計画の構成

「基本構想」「基本計画」「個別計画等」で構成する。

##### ①基本構想

目指すまちの将来像を定め、その実現に向けたまちづくりの大きな方向性を示す。

##### ②基本計画

基本構想で示す将来像やまちづくりの方向性に基づき、分野別で目指すまちづくりの目標を体系化し、「重点的に取り組む目標」等を位置付ける。

計画期間は2020年度（令和2年度）から概ね10年間とする。

##### ③個別計画等

基本計画で示す目標を推進する実施計画として、各分野の個別計画等を位置付ける。個別計画に基づき毎年度事業を実施することで、制度改正や社会情勢の変化、地域課題などに柔軟に対応したまちづくりを進める。

### 2. 策定の背景

#### 社会の潮流

- ・人口減少と少子高齢化の進行
- ・地方創生の推進
- ・持続可能なまちづくり
- ・人生100年時代への対応
- ・高度情報化のさらなる進展
- ・多発する自然災害

## 室蘭市の現況と課題

項目	現況	課題
人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人口減少が続いており国立社会保障・人口問題研究所の推計では2040年には5万5千人と予測</li> <li>●15歳未満人口、生産年齢人口が減少し、高齢化率は上昇傾向</li> <li>●10代以外の全ての世代で転出超過、特に20～30代の転出が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生産年齢人口減少による働き手の不足</li> <li>●子育て世帯の減少による少子化加速や高齢化率の上昇</li> <li>●若い世代の減少による教育機関への入学者数減少</li> <li>●地域のコミュニティが衰退</li> <li>●人口減少による税収の減少</li> </ul>
産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第2次産業の割合が高く、特に製造業が多くを占めており、事業所数・従業員数は減少傾向。製造品出荷額は社会情勢に左右される</li> <li>●商業では、事業所数・従業員数・商品販売額がいずれも減少傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●製造業を含む地元企業の人材不足</li> <li>●地元での買い物客の減少による、閉店や地域経済の縮小</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>●観光入込客数は近年増加傾向にあり、日帰り客が約8割を占める</li> <li>●近年は外国人観光客が急増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長時間の滞在や消費を促す取り組み</li> </ul>
室蘭港	<ul style="list-style-type: none"> <li>●企業の撤退等により取扱貨物が減少しているものの、新たなエネルギー産業の進出もみられる</li> <li>●フェリー航路の就航により貨物や交流人口が増加傾向</li> <li>●客船の寄港が増加傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新規取り扱い貨物の掘り起こしや新たなエネルギー産業での物流ルートの構築</li> <li>●交流人口増加を図るため、改修整備中のふ頭を活用した客船の誘致等</li> </ul>
交通体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公共交通の利用者が減少傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用者の減少やドライバー不足等による公共交通の利便性の低下</li> </ul>
財政状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市税等の一般財源収入が減少傾向</li> <li>●少子高齢化対策に関わる給付費など扶助費が増加傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公共施設や道路等の生活インフラの維持</li> <li>●基礎自治体としての行政サービスの維持</li> </ul>
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>●老朽化した公共建築物が全体の約8割を占める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●継続した公共施設の維持管理</li> </ul>
災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内各地の土砂災害リスク</li> <li>●市街地などの津波・洪水リスク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自助・共助・公助の防災力向上と連携強化</li> </ul>

## 室蘭市の資源

### ものづくり

確かな技術力による航空機産業など成長分野への参入や、環境・エネルギー分野の展開など、産学官が連携し、産業の持続的な発展、拡大を目指した挑戦を続けている。

### 室蘭港

北海道最大の水深を誇り、大型船舶の入港が可能であるほか、世界最大級の大型クルーズ船を受け入れできる岸壁を整備している。

### 大学などの教育機関

大学等の立地により若い世代や留学生が集まるほか、工業大学として企業と連携した技術開発等、様々な分野における知の拠点となっている。

### 景観・自然環境

工場と自然が織りなす景観は独自の魅力であり、景色に愛着を感じる市民も多く、山や海が市街地に近接し、自然と身近に触れあえる環境に恵まれている。

### 市民活動

協働のまちづくりを進めており、市民活動センターはこれまで多くの団体に利用され、市民活動に取り組む意識が根付いている。

### 医療資源

市民の健康や安心できる暮らしを支える基盤である高度な医療機関が立地している。

### 広域連携

広域連合による行政事務の広域化や定住自立圏形成協定に基づく医療、防災等の分野での連携など、西胆振地域を中心に広域連携を進めている。

### 3. まちづくりに対する市民の意識

---

これまでグループインタビュー、アンケート等により市民意見を把握

#### グループインタビュー：17団体 124名

- ・中高生、大学生や若手教員、創業者など若者・現役世代を中心にインタビュー
- ・撮りフェス開催にあわせ、会場（みたら室蘭）で来場者にインタビュー
- ・これまでインタビューした若手を中心にワーキンググループを立ち上げ、意見交換

主な意見（抜粋）

「きれいな自然景観」「子育て環境が充実」「職種の多様性がない・若い人が働きたい職種がない」  
「まちを知り、自分たちで魅力を発信することが大事」「頑張っている人を応援したい」

#### シールアンケート：水族館来館者 108名

- ・市民憲章制定記念・水族館無料開放にあわせ、「どんなまちになってほしいか」シールアンケートやインタビューを実施
- ・『子育てしやすいまち』『健康で元気に暮らせるまち』に対する回答が多かった。

#### 市民アンケート調査

- ・まちづくりへの評価や満足度、今後の重要度について調査を実施
- ・対象：住民基本台帳より20歳以上の市民2,000人を無作為抽出
- ・期間：平成31年2月4～22日
- ・回答：822票（41.1%）

主な結果

- ・まちに愛着や親しみを感じている人の割合：73.0%
- ・室蘭市を住みやすいと感じている人の割合：72.1%
- ・今後も住み続けたいと思う人の割合：75.2%
- ・市の取り組みに対し今後の重要度が高い項目  
にぎわいづくり・行財政改革・観光・企業誘致・人材確保・子育て  
医療・福祉・救急・防災

## II. 基本構想について

### 1. これからの室蘭に求められるもの

---

住み続けたいと思えるまちに近づくためには、目指す目標を共有し、市民一人ひとりが同じ方向を見据えて歩みを続けることが大切。

住み続けたいという思いの根底にあるのは、「室蘭が好き」という気持ちであり、住んでいる人が、希望に満ちて輝いていれば、人は惹きつけられ、さらに人を呼び、室蘭を好きな人が増えていく、プラスの連鎖を生み出す。

住んでいる人が「室蘭が好き」という気持ちを持ち、希望を持って充実した日々を送ることができる、今以上に魅力的なまちを目指すために、これからのまちづくりに取り組む基本姿勢を示す。

#### まちづくりに取り組む基本姿勢

#### ① まちづくりの目標を共有し、一人ひとりがそれぞれできることに取り組む

---

- ・人口減少が進み一人ひとりが担う役割が大きくなるなかでは、市民・団体・企業・行政などまちに関わる人が互いに連携し、まちづくりに取り組むことが重要
- ・そのためには、まちづくりの大きな目標を共有することが大切
- ・目標を共有することで、市民一人ひとりができることに取り組み、その小さな行動がまちを元気にする大きな輪に広がる
- ・自分にできる役割があることが、生きがいやまちに住んでいる実感となり、新たな人同士のつながりを生む
- ・一人ひとりが主体的に行動し、まちづくりの輪を広げていく、その積み重ねが住み続けたいと思えるまちに近づいていく

## ② まちの資源を磨きあげ将来に向けて増やしていく

---

- ・市外からも人を呼び込み、ヒトやモノの新たな流れをつくるには、今ある資源を磨きあげ魅力を高め、発信することが重要
- ・室蘭には多くの資源があるが、日常目にするもの、触れるものにこそ、新たな価値が生まれる可能性がある
- ・一人ひとりが日々過ごす環境の良さに気づき、価値を見だし、伝えていくことが大切
- ・価値ある資源を増やし伝えることで、外から人が訪れ、やがて働く場の創出や定住につながる好循環が生まれるとともに、子どもたちのまちへの愛着につながる

## ③ 持続可能なまちづくりを進める

---

- ・これまでのまちづくりは、公共施設やインフラ整備、白鳥大橋開通後はサークル都市としての基盤をつくり、開港 150 年・市制施行 100 年につながる歩みを進めてきた
- ・今後は人口減少社会を見据え、公共インフラなど社会資本を人口規模に合わせて整え、適切に管理し、次の世代に引き継ぐことが必要
- ・また、持続可能な開発目標（SDGs）の視点や AI・IoT 等の先端技術の活用など時代の流れを捉え、次の 100 年に向かって挑戦を続けることが重要
- ・人口規模に合わせたまちづくりと未来への挑戦により、持続可能なまちをつくっていく

以上を踏まえ、第 6 次総合計画で目指すまちの将来像を定め、その将来像に向かってこれからのまちづくりを進めていく。

## 2. 目指す将来像

---

### 案① 室蘭が好き。みんなで創る、住み続けたいまち

#### ～まち・ひと・みなと つながりが未来を創る～

- ・住み続けたいという思いの根底にある「**室蘭が好き**」という気持ちを表現
- ・将来を見据え、**みんなで支え合い**ながら未来を創っていく姿勢を表現
- ・住み続けたいまちを目指すために、まち・ひと・みなと等、本市の資源を**組み合わせ**、未来を創っていく姿勢を表現

### 案② みんなで創るストーリー あなたが主役のまち 室蘭

#### ～まち・ひと・みなと つながりが未来を創る～

- ・一人ひとりが**できることに取り組む**ことで、まちづくりの輪を広げ、未来を創っていくさまを**みんなで創るストーリー**という言葉で表現
- ・特に、まちづくりに**大切なのは人**であることから**あなたが主役**という言葉で表現
- ・そのようなまちを目指すために、まち・ひと・みなと等、本市の資源を**組み合わせ**、未来を創っていく姿勢を表現

### 案③ 昔も今もこれからも 住み続けたいまち室蘭

#### ～まち・ひと・みなと つながりが未来を創る～

- ・先人が私たちに残してくれたまちの良いところをしっかりと未来へ引き継ぎ、人口減少社会においても、ずっと**住み続けたい**と思えるまちをつくることが大切という思いを表現
- ・住み続けたいまちを目指すために、まち・ひと・みなと等、本市の資源を**組み合わせ**、未来を創っていく姿勢を表現

### 3. 将来像の実現に向けたまちづくりの方向性

---

まちの将来像を実現するため、7つの方向性に基づきまちづくりを進める。

#### 1 働く人が集まるまちづくり

---

- ・ 長期的・世界的な視野を持ち、室蘭市の産業の発展を企業とともに目指す
- ・ まちの特性を活かし、企業や大学をはじめとする教育機関と連携し、魅力的な雇用の場の創出や学生が定着する取り組みを進める
- ・ 多様な働き方ができるまちを目指す

#### 2 若い人や子育て世代が住みたくなるまちづくり

---

- ・ 子育て環境の充実に向けた取り組みを行い、みんなで子育てを応援するまちを目指す
- ・ ふるさとへの愛着を育むため、地域や企業と連携し、子どもの頃にまちの産業、歴史を知る取り組みを進める

#### 3 健康で活躍できるまちづくり

---

- ・ 健康への意識を高め、誰もが住み慣れた地域で元気に暮らせるまちを目指す
- ・ 年齢や性別等に関わらず様々な人が互いを尊重し、支え合うまちを目指す
- ・ スポーツや文化・市民活動等、趣味やスキルを発揮し、活躍する人を増やす

#### 4 ヒト・モノの交流が生まれるまちづくり

---

- ・ 自然や文化、歴史も活用し室蘭市の魅力を発信、交流人口や関係人口の拡大に向けた取り組みを推進する
- ・ 新エネルギー分野の視点も踏まえ企業誘致を図り、物流拠点として港の発展を目指し、客船寄港時の人の流れをにぎわい創出につなげ、まちの活性化に取り組む

#### 5 コンパクトで住みやすいまちづくり

---

- ・ 都市機能の集約や、空き地・空家活用の推進等、魅力あるコンパクトなまちづくりを進める
- ・ 地域特性を踏まえた持続可能な公共交通網の維持・確保に取り組む

#### 6 安全安心で環境にやさしいまちづくり

---

- ・ 災害に備えまちの強靱化を推進し、消防・救急体制の維持強化や交通安全対策等、安全なまちづくりを進める
- ・ 環境への負荷の少ない持続可能なまちづくりを進める

#### 7 持続可能な行政運営

---

- ・ 人口規模に見合った行政運営のため、持続可能な財政基盤を確立する取り組みを進め、公共施設の再編などインフラの適切な維持管理を行う
- ・ 西胆振地域としての魅力を高め、様々な分野について連携した取り組みを推進する



### III. 基本計画について

#### 1. 目標中心の計画

---

行政が実施する「取り組み」中心の計画ではなく、どのようなまちにしたいか各分野に「目標」を持って、まちづくりを進める目標中心の計画とし、まちづくりの方向性ごとに目安とする指標を設定。

#### 2. 総合指標の設定

---

全体として住み続けたいまちに近づいたのか、総合的に目安とする指標を設定。

**総合指標 この先も室蘭市へ住み続けたい人の割合**

**75.2** %以上（2019年2月アンケート調査結果）

#### 3. 重点的に取り組む目標の設定

---

中長期的な視点で各分野のまちづくりに取り組む一方、限られた資源を有効活用するため、選択と集中の視点を持ち、短期的には人口減少対策に集中して取り組む。

中間である5年を目途に効果を検証し、また社会情勢の変化や市民ニーズなども踏まえながら、その位置付けの点検を行う。

#### 4. 計画期間

---

2020年度（令和2年度）から概ね10年間

## 5. 施策の体系について

将来像の実現に向けて、まちづくりの方向性に基づき、分野別で目指すまちづくりの目標を次のとおり定める。

また、中長期的な視点でまちづくりに取り組みながら、一方で、限られた資源を有効に活用し、まちづくりを進めるため、重点的に取り組む目標を設定する。

将来像	方向性	まちづくりの目標
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 働く人が集まる まちづくり	目標① <u>企業・大学等と連携し、成長・挑戦を続けるものづくりのまち</u> 目標② <u>安定的・魅力的な雇用の場を生み出し、働く人が集まるまち</u> 目標③ <u>多様な働き方により働きがいのあるまち</u>
	2 若い人や子育て 世代が住みたく なるまちづくり	目標④ <u>仕事と子育てが両立できる保育環境や所得に関係なく 安心して子育てできるまち</u> 目標⑤ <u>団体・企業と連携し、みんなで若者・子育てを応援するまち</u> 目標⑥ <u>子どもが健やかに成長し、ふるさと「室蘭」への愛着が育つ教育環境</u>
	3 健康で活躍できる まちづくり	目標⑦ <u>誰もが健康で、住み慣れた地域で暮らし続けられるまち</u> 目標⑧ <u>年齢や性別等に関わらず様々な人が互いを尊重し、支え合うまち</u> 目標⑨ <u>スポーツや文化・市民活動など生きがいを持って活躍できるまち</u>
	4 ヒト・モノの交流が 生まれるまちづくり	目標⑩ <u>自然や食、歴史文化など地域資源を磨き上げ発信し、 国内・海外から訪れたいくなるまち</u> 目標⑪ <u>物流や交流の拠点としてにぎわいのある港</u>
	5 コンパクトで住み やすいまちづくり	目標⑫ <u>都市機能が集まりにぎわいのあるまちなかや快適な居住環境の創出により 住み続けたいくなるまち</u> 目標⑬ <u>利便性が高く持続可能な公共交通網の形成により 誰もが移動しやすいまち</u>
	6 安全安心で環境に やさしいまちづくり	目標⑭ <u>災害に強く、安全に暮らせるまち</u> 目標⑮ <u>緑を育て、環境にやさしいまち</u>
	7 持続可能な 行政運営	目標⑯ <u>将来にわたり持続可能な行財政運営</u> 目標⑰ <u>将来を見据えた公共施設の再編など適切な維持管理</u> 目標⑱ <u>近隣市町との広域連携を促進する西胆振の中心市</u>
<b>基本構想</b>	<b>基本計画</b>	分野ごとに目安となる指標を設定 計画期間：2020年度(令和2年度)から概ね10年間

総合指標：この先も室蘭市へ住み続けたい人の割合

**75.2 %以上**

2019年（平成31年）2月実施市民アンケート調査結果

### 【総合指標の設定】

全体として住み続けたいまちに近づいたのか、総合的に目安とする指標を設定

### 推進する個別計画・取り組み

#### 『総合戦略』

『成長産業振興ビジョン』  
『地域未来投資促進法「室蘭市地域基本計画」』

『子ども・子育て支援事業計画』 『子育て応援プラン』  
『教育施策の大綱』 『子どもの読書活動推進計画』  
コミュニティスクールの推進  
てついくの推進

『健康増進計画』 『地域福祉計画』 『国民健康保険データヘルス計画』  
『高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画』  
『障がい者支援計画』 地域医療の確保 『社会教育振興計画』  
『男女平等参画基本計画』 『協働のまちづくり指針』

#### 『観光振興計画』

『室蘭港長期構想』 『港湾計画』

#### 『総合戦略』【再掲】

『立地適正化計画（都市計画マスタープラン）』 各公共施設整備

#### 『立地適正化計画（都市計画マスタープラン）』【再掲】

『空家等対策計画』 『緑の基本計画』  
『耐震改修促進計画』  
『地域公共交通網形成計画』

『地域防災計画』 『国民保護計画』 『空家等対策計画』【再掲】  
『交通安全計画』 消防・救急体制の維持強化 『耐震改修促進計画』  
安全で住みよいまちづくりの推進 『緑の基本計画』【再掲】  
『環境基本計画』 『一般廃棄物処理基本計画』 『分別収集計画』

『行政改革プラン』 『各会計健全化』 『水道ビジョン』  
『下水道ビジョン』 『公共施設等総合管理計画』  
『公共建築物適正化計画』 『公共施設跡地利用計画』  
『各施設長寿命化計画』 『西いぶり定住自立圏構想』  
『西いぶり生涯活躍のまち構想』 『西いぶり広域連合広域計画』

### 個別計画

### 重点的に取り組む目標

喫緊の課題である人口減少対策を進めるため選択と集中の視点に立ち

- ・人口減少の抑制
- ・一定程度人口が減少することを前提とした持続可能なまちづくり

に力を入れた重点目標を設定

重点目標 1

#### まちに住み続けてもらい、新たな人を増やす

転出を抑制し、転入を促進する

『総合戦略』の推進

重点目標 2

#### 魅力を高め交流人口を拡大する

定住対策とあわせ、資源を磨き外からも人を呼び込む

『観光振興計画』の推進

重点目標 3

#### 人口規模にあったまちに整える

将来人口を見据え、まちのコンパクト化や再編を行う

『立地適正化計画（都市計画マスタープラン）』の推進

重点目標 4

#### まちづくりを持続させる確かな基盤をつくる

まちづくりを進めるための確かな基盤が必要

『行政改革プラン』の推進

中間年である5年をめぐりに効果を検証

重点的に取り組む目標を設定

## 分野別目標

### まちづくりの方向性1 働く人が集まるまちづくり

目標① 企業・大学等と連携し、成長・挑戦を続けるものづくりのまち

目標② 安定的・魅力的な雇用の場を生み出し、働く人が集まるまち

目標③ 多様な働き方により働きがいのあるまち

#### 目標に向けた取り組み

- ・企業の付加価値の向上や競争力の強化を支援し、新規産業に挑戦する土壌づくり
- ・再生可能エネルギー・水素関連事業の実証事業誘致の取り組み
- ・働き手確保に向けて企業にとって利用しやすい様々な支援策の展開
- ・企業や大学等と連携し、研究開発や IT 企業誘致の取り組み
- ・女性や高齢者など様々な人が活躍できる多様な働き方の実現に向けた取り組み

目安とする指標

指標名	現況	目標値
産業振興条例助成の助成申請件数	5 件 (H27～30 年度の平均)	現状より増 (R2～R11 年度の平均)
働き手確保支援に関する事業の 助成申請件数	4 件 (H27～30 年度の平均)	現状より増 (R2～R11 年度の平均)

### まちづくりの方向性2 若い人や子育て世代が住みたくなるまちづくり

目標④ 仕事と子育てが両立できる保育環境や所得に関係なく安心して子育てできるまち

目標⑤ 団体・企業と連携し、みんなで若者・子育てを応援するまち

目標⑥ 子どもが健やかに成長し、ふるさと「室蘭」への愛着が育つ教育環境

#### 目標に向けた取り組み

- ・適正な保育施設の整備や保育士確保の支援による待機児童の解消に向けた取り組み
- ・ひとり親家庭をはじめ、貧困等さまざまな状況にある子どもや家庭への支援
- ・様々な子育て支援の展開によるまち全体で子育てを応援する機運の更なる醸成
- ・一人ひとりの個性を生かした、主体的に学習に取り組む心豊かな児童の育成
- ・地域の産業やものづくりへの関心を育む「てついく」の推進
- ・保護者や地域住民も積極的に学校運営に関わるコミュニティスクールの展開

目安とする指標

指標名	現況	目標値
待機児童数	72 人 (H30 年度 1 年間の総数)	現状より減少 (R2～R11 年度の平均)
コミュニティスクール設置数	1 中学校区 (H30 年度)	全中学校区 (R11 年度)

### まちづくりの方向性3 健康で活躍できるまちづくり

- 目標⑦ 誰もが健康で、住み慣れた地域で暮らし続けられるまち
- 目標⑧ 年齢や性別等に関わらず様々な人が互いを尊重し、支え合うまち
- 目標⑨ スポーツや文化・市民活動など生きがいを持って活躍できるまち

#### 目標に向けた取り組み

- ・がん対策の推進をはじめ、健康寿命の延伸につながる取り組み
- ・介護予防や認知症予防、住まいへの支援など住み慣れた地域で暮らすための取り組み
- ・障がいのある方の自立した生活に向けた相談体制や支援サービスの充実
- ・将来にわたり持続可能な医療提供体制の確保に向けた取り組み
- ・文化やスポーツ活動を支える施設整備や各種団体への支援
- ・町内会の活性化、市民活動の普及啓発、まちづくり意識の醸成に向けた取り組み

目安とする指標

指標名	現況	目標値
高齢者人口における要介護認定割合	16.9% (H30 年度)	現状を維持 (R11 年度)
市民活動センター登録団体数	158 団体 (H30 年度)	現状より増加 (R11 年度)

### まちづくりの方向性4 ヒト・モノの交流が生まれるまちづくり

- 目標⑩ 自然や食、歴史文化など地域資源を磨き上げ発信し、国内・海外から訪れたいまち
- 目標⑪ 物流や交流の拠点として賑わいのある港

#### 目標に向けた取り組み

- ・祝津絵鞆や地球岬周辺などエリア別の特徴を生かした魅力向上や観光客の滞在・消費を促す取り組み
- ・官民連携によるまちなかのにぎわいづくりや新たな公共施設を生かした修学旅行や合宿・大会誘致などの取り組み
- ・市民がまちの魅力を再認識し発信したくなるまちのイメージづくりに向けた取り組み
- ・フェリー、コンテナ航路の利用促進や航路誘致、環境・エネルギー分野等での活用など物流拠点としての利用拡大に向けた取り組み
- ・祝津絵鞆地区におけるポートセールスによる入港促進など、にぎわいと触れ合いのある港空間の形成に向けた取り組み

目安とする指標

指標名	現況	目標値
観光入込客数	1,242 千人 (H30 年度)	1,500 千人 (R11 年度)
客船入港隻数	6 隻 (H21~H30 年度の平均)	現状より増加 (R2~R11 年度の平均)

## まちづくりの方向性5 コンパクトで住みやすいまちづくり

目標⑫ 都市機能が集まり賑わいのあるまちなかや快適な居住環境の創出により住み続け  
たくなるまち

目標⑬ 利便性が高く持続可能な公共交通網の形成により誰もが移動しやすいまち

### 目標に向けた取り組み

- ・ 公共施設の拠点集約と再編、公的不動産の活用、民間活力を活用した事業の推進
- ・ 将来にわたりまちなかの人口を保つため、各世代に応じた居住誘導施策の推進
- ・ 空家の利活用促進と増加抑制の取り組み
- ・ 地域ニーズや利用状況等を踏まえた効率的かつ利便性の高い公共交通網の形成や環境整備、利用促進の取り組み

目安とする指標

指標名	現況	目標値
居住誘導区域内の人口密度	46人/ha（H27年度）	35人/ha以上（R22年度）
路線バス利用の満足度	36%（H30年度）	50%以上（R10年度）

## まちづくりの方向性6 安全安心で環境にやさしいまちづくり

目標⑭ 災害に強く、安全に暮らせるまち

目標⑮ 緑を育て、環境にやさしいまち

### 目標に向けた取り組み

- ・ 市民の防災意識の向上や自主防災組織の人材育成、備蓄品の整備など避難体制の充実
- ・ 市内建築物の耐震化促進に向けた取り組みや、管理不全な空家発生の未然防止に向けた取り組み
- ・ 消防・救急体制の維持強化や関係機関等と連携した交通安全、防犯活動の強化
- ・ 多様な自然環境の保全や緑化促進など緑を身近に感じる機会の創出
- ・ ごみの減量、資源化及びエネルギーの有効利用など環境負荷の少ないまちづくりに向けた取り組み

目安とする指標

指標名	現況	目標値
自主防災組織結成率	64%（H30年度）	現状より増加（R11年度）
1人1日あたりごみの排出量	1,040グラム（H30年度）	現状より減少（R2～R11年度の平均）

## まちづくりの方向性 7 持続可能な行政運営

目標⑯ 将来にわたり持続可能な行財政運営

目標⑰ 将来を見据えた公共施設の再編など適切な維持管理

目標⑱ 近隣市町との広域連携を促進する西胆振の中心市

### 目標に向けた取り組み

- ・ 自主財源の確保や、事務事業の見直し等による歳出の削減に向けた取り組み
- ・ 公共建築物の保有総量の適正化や予防保全型の維持管理による長寿命化に向けた取り組み
- ・ 公共施設の集約等により発生した跡地の有効活用に向けた取り組み
- ・ 地方公営企業の計画的な事業運営による経営基盤の強化や事業の効率的な運営
- ・ 地域産業の振興や広域観光の推進など西胆振圏域の活性化に向けた広域連携の推進

目安とする指標

指標名	現況	目標値
累積収支不足額の解消	効果額 1,166 百万円 (H28～H30 年度までの総額)	1,834 百万円を解消 (R3 年度)
※R4 からの次期行政改革プランにあわせ指標の見直しを検討		
西胆振各市町と連携して 取り組む事業や業務の数	62 (H30 年度)	現状を維持 (R11 年度)

## 重点的に取り組む目標

### 重点目標1 まちに住み続けてもらい、新たな人を増やす

#### 推進する個別計画

総合戦略

#### ねらい

- ・まちの特性を生かし、産業振興と魅力ある雇用の場を創出する
- ・子育て世代が希望を持って住み続けられるまちをつくる
- ・まちの資源を生かし、新たな「ひと」の流れをつくる

目安とする指標 (検討中)

指標名	現況	目標値
市の施策により創出する新規雇用者数 など		

### 重点目標2 魅力を高め交流人口を拡大する

#### 推進する個別計画

観光振興計画

#### ねらい

- ・観光客の滞在・消費を促し、地域経済に循環させる取り組み「稼ぐ観光」によって地域経済の活性化を目指す
- ・独自の資源を磨き上げ、他の地域との差別化を図る
- ・強みある観光コンテンツを維持していく取り組みを進める

目安とする指標

指標名	現況	目標値
観光消費単価	日帰り客 3,720円 宿泊客 16,782円 (H29年度)	現状より1,000円増加 (R11年度)
観光入込客数	1,242千人 (H30年度)	1,500千人 (R11年度)



## 重点目標 3 人口規模にあったまちに整える

### 推進する個別計画

立地適正化計画（都市計画マスタープラン）

#### ねらい

- ・ 公共施設の拠点集約と再編により市民サービスを充実させる
- ・ 既存ストック活用等による移住・定住対策を推進する
- ・ 広域中心拠点にふさわしいまちの顔をつくる

目安とする指標

指標名	現況	目標値
居住誘導区域内の人口密度	46 人/ha（H27 年度）	35 人/ha 以上（R22 年度）
路線バス利用の満足度	36%（H30 年度）	50%以上（R10 年度）

## 重点目標 4 まちづくりを持続させる確かな基盤をつくる

### 推進する個別計画

行政改革プラン

#### ねらい

- ・ 事業の検証や見直しを継続的に実施し、行財政基盤の強化を図る
- ・ 公共施設の保有総量の適正化や適正管理を推進し、市有財産のスリム化を図る
- ・ 民間ノウハウなどの活用を図りながら、行政サービスの利便性向上に取り組む

目安とする指標

指標名	現況	目標値
累積収支不足額の解消	効果額 1,166 百万円 (H28～H30 年度までの総額)	1,834 百万円を解消 (R3 年度)
※R4 からの次期行政改革プランにあわせ指標の見直しを検討		
公共建築物の保有総量	1.4% 縮減（H30 年度）	15% 縮減（R7 年度まで）